

"Where there is the necessary technical skill to move mountains, there is no need for the faith that moves mountains"

Eric Hoffer

会派紹介

「くまもと未来」とは

政治の世界には、なぜあれほど多くの美辞麗句があふれ、声高で性急な言説ばかりが飛び交っているのでしょうか？「弱い犬ほど何とやら」で、それは政治家の自信の表れというより、むしろ弱さや無力感の表れとさえ映ります。

だとしたら、その無力感の根っこにあるのは何なのでしょう？

おそらくそれは、自分たちが「民意を代弁している」という、確かな手ごたえの欠如からくるものに違いない、私たちは自省をこめてそう考えます。

地方自治の再生を期すにあたり、私たちはまず「民意（市民ニーズ、市民の意見）」を反映するための、確かな仕組みを作り上げよう、そう考えました。

民意を把握し、それを政策に反映させるための具体的な手続き・プロセスを探究し、それを会派で共有しようじゃないか。

世界的名声を博しながら、60才になるまでサンフランシスコの港湾労働者として働き続けた米国の思想家E・ホフファーは、かつてこう言いました。

「山を動かす技術のあるところでは、山を動かす信仰は要らない。」

きちんとした政治の仕組みがあるところに、威勢の良いスローガンは不要です。そこにはただ淡々たる日々の仕事があるだけ。

優れた水泳選手は波しぶき一つ立てず、なめらかに泳ぎます。それと同じように、優れた政治システムは、静かに着実に前へ進む、私たちはそう信じます。

そのような、地に足のついた、次代に誇れる政治システムを確立するために・・・

私たちは次頁以降に掲げる三つのモットーを胸に、前にすすみ始めることを決意しました。

市民の声と現場が第一

- ・現場に飛び込み、市民の皆さんの生の声を集めることから始めます。
- ・先入観を排し、中立的な立場で市民の皆さんの意見を聞くため、アンケート調査などを行います。
- ・特定団体の「声の大きさ」に惑わされることなく、真の市民ニーズをくみ取り、行政に反映させます。

*1「ゴミ有料化問題」の検証

先進事例の東京都八王子市に向き、早朝からゴミ収集の実地作業に汗を流しました。また、会派独自で6000人規模の市民アンケートを実施しました。



市民アンケート

- ①熊本産院について
市民病院と一体化させることに
- (1) 賛成 (2) どちらかといえば賛成
(3) 反対 (4) どちらかといえば反対
(5) わからない・その他
- ご意見

- ②家庭ごみの有料化について
1. 家庭ごみ収集を有料化することに
- (1) 賛成 (2) どちらかといえば賛成
(3) 反対 (4) どちらかといえば反対
(5) わからない・その他
- ご意見
2. 通常使う45Lの袋でいくらが妥当か
- (1) 30円 (2) 45円
(3) 60円 (4) それ以外 () 円

*2「市立産院存廃問題」の検証

会派独自の市民アンケート(*1と同時実施)では、「存続」「廃止」の両論を併記したリーフレットを添え、公平中立な立場で、市民の皆さんの判断を仰ぎました。

*3「熊本市議会がまだす条例(議会基本条例)」の提出

先進事例の視察を重ね、各界でご活躍の市民有志の方々に構成された「市民会議」を独自に3回開催し、徹底した議論をもとに、親しみやすい熊本弁のタイトルや「ですます調」を採用しました。

市民のための政策集団

- ・市民目線で政策を練り、制度化(条例化、予算化等)を目指します。
- ・市民の皆さんには見えていても、行政の網の目からもれてしまうような課題を拾い上げ、市民参加で解決案を策定し、民意という力を結集して政策に実現させます。

*4「路上スカウト禁止条例」の提出

街頭で若い女性に付きまとい、風俗業への就職を誘いかける路上スカウト。その規制に向けた取組みは、一人の若い女性が会派議員にもらった一言がきっかけでした。

「スカウトって知ってますか？」

ここからはじまって、数千人規模のアンケートを、携帯サイトと紙の二種類で実施。下通繁栄会と共催した「まちなかシンポジウム」では、皆さんの関心喚起と理解促進のため、会派議員脚本・出演の寸劇を上演。

他の自治体の先進的取り組みの研究や警察・検察などの専門部署との協議を通じて、条例案の策定と上程にこぎつけました。



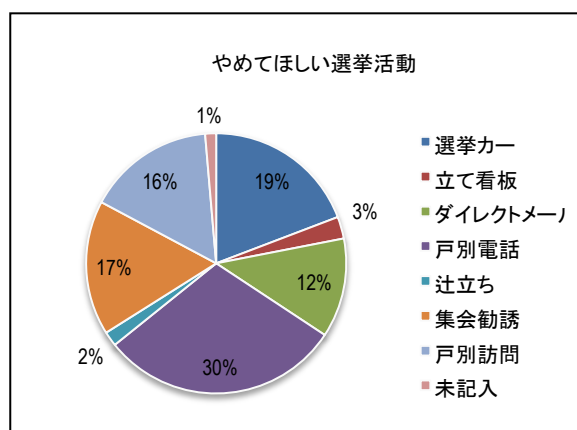
自分たちだけでも、できることはないだろうか？
（自分たちから変えよう、変わろう）

- ・ 市民ニーズが大きいと判断した施策は、独自ですぐに着手します。
- ・ 施策のメリットや問題点をいち早く実地検証し、行政の「言い訳」を封じて、早期実現を促します。
- ・ お体裁だけの骨抜き制度が作られる「ありがちな結末」を阻止します。

*5「選挙めいわく行為」の自粛 “「お願い」の選挙から「約束」の選挙へ”

日本の奇異なる選挙慣習への自省から、独自に2000人規模の市民アンケートを行いました。

その中でも特に批判の声が強かった「名前の連呼」の自粛を皮切りに、成熟した民主主義にふさわしい選挙手法へと、会派独自で舵を切ります。（会派マニフェストの頁をご参照下さい。）



*6 市民との意見交換会「何でも言って委員会」

全国はおろか県内でも、議会だよりを発行している先進的自治体が多数あり、「見える議会」を通じて、行政への市民の参加を促しています。しかるに熊本市は、その緒にもついていません。

しかし、議会だよりの予算化をまつ間にも、市民の生活は続き、行政課題は増える一方。

そこで私たちは、会派独自で「定例議会報告会」を兼ねた意見交換会「何でも言って委員会」を開催して、より開かれた議会の実現をめざします。（会派マニフェストの頁をご参照下さい。）

会派の将来展望

- ・ 上記3点に代表される「正しい政治プロセス」に賛同する議員を募り、政令市熊本の全域に目配りできるマンパワーを備えたいと考えます。
- ・ ポイントは、自由で活発な議論をこそ歓迎するという点。
- ・ 中央政党という硬直した一枚岩組織が、中身のない立場争いを上意下達で持ち込むせいで、地方自治の不毛がうまれています。
- ・ 私たちが目指すのは、そのまねごとではなく、活発で実のある議論ができる土壌をつくること。
- ・ むしろ幅広い政治信条の持ち主を受け入れたいと考えます。